

魅力多き糸満市

網走市立第三中学校3年

佐藤 美心



私は7月25日から28日まで、市内の中学生5人と神奈川県厚木市の中学生6人と共に、友好都市である沖縄県糸満市を訪問しました。そして様々な体験や見学を通して、糸満市の「文化」と「平和」について学び、たくさんのお話を聞きました。

まずは「文化」。糸満市の食べ物や飲み物は食べたことのないものばかりでした。サーターアンダギー、マンゴー、ドラゴンフルーツなど、どれも美味しく、一口で笑顔になりました。また、糸満市の方々は明るく、陽気な方が多くて食事がとても楽しかったです。

そして、文化体験で印象に残っていることは、琉球ガラス村でコップ作りをしたことです。そこでは、型吹き、ガラスの硬さ体験、成形の3つの工程を行いました。特に難しかったのは成形です。両手を止めずに動かして、飲み口の部分を綺麗な円にするのが難しく、職人の方があたり前にできていてとても尊敬しました。また、琉球ガラス村にはお店もあり、店内は色とりどりのガラス製品で光り輝いていました。あれもこれも欲しくなる、見ているだけで幸せな時間でした。糸満市の文化は、糸満市でしか体験できないもので、深く思いに残るから、地元からも観光客からも愛されているのだな、とわかりました。

次に「平和」についてです。私は2日目に様々な施設を見学し、平和学習を行いました。平和祈念資料館では、戦争で犠牲になった少年や口でキャンディーを赤ちゃんに与える写真、血が飛びちった衣服などが目に焼き付いてきました。どれも信じられない、今とはかけ離れた光景でした。0歳で戦争を経験した久保田さんは、私達にこんな話をしてくれました。

「当時はとにかく食料と水がなかったから、腐ったさとうきびや米、遺体が浮いている水でも口に入れました。餓死してしまうからね。」私はこの話を聞いたとき、今の自分がどれだけ恵まれているのか気づきました。そして、もしその時代に生まれていたら、と考えるだけで体が震えるのがわかりました。最後に久保田さんは「戦争は人が人でなくなる。そして一生つらいまま記憶に残る。でも、だからこそ、過去から目を背けてはいけない。」と言います。私の心に突き刺さりました。その後は、ひめゆりの塔を見学して元々は教師を目指す女の人が集まった女学校だと知りました。資料館の中には亡くなった方一人一人の写真があり、年齢も性格も今の自分と変わらないのにな、と思うととても辛い気持ちになりました。

この4日間を振り返って私が考える「平和」とは、安心できる環境があって笑顔になれることだと思います。また、平和を守り続けるためには、今回学んだことを周りの人に伝え、平和への理解者を増やすこと、そして、思いやりを持って誰かのために行動することが必要だと強く思います。私は、それができる人になりたいです。

最後に、この糸満市訪問に携わってくださったみなさん、本当にありがとうございました。一生忘れない思い出です。